

『 摂食嚥下ケア研修 』

研修会実施報告

日時 : 平成 30 年 11 月 10 日 (土)

対象者 : 卒後 5 年以上 介護福祉士

参加者数 : 41 名

目的 : 摂食嚥下機能の評価ができ、誤嚥性肺炎や窒息、栄養低下、脱水を予防し
看護実践に活かすことができる

<講師の紹介>

県立奈良五條病院に就職後、愛知県看護協会、摂食・嚥下障害看護教育課程を受け、摂食・嚥下障害看護認定試験に合格。

現在、南奈良総合医療センターで、摂食・嚥下障害看護認定看護師としてご活躍されている、佐谷直美先生をお招きし、ご講義をしていただきました。



<内容>



今回の研修では、「解剖と嚥下のメカニズム」「高齢者の嚥下」「嚥下機能の評価」「食形態」「ポジショニング」「介助方法」「口腔機能・口腔ケア」など、幅広い講義の中で、実際、誤嚥しやすい体位でプリンの摂取介助を行いました。実際行うことで、食事形態、介助する時の立ち位置、患者さんのポジショニング、むせ込んだりした時に背中を叩くなど、間違った方法で食事介助をしていたということに気付くことができました。また、口腔ケアの方法についても様々な方法があることを学びました。

食事介助をすることは、私たち看護者にとってはとても重要な役割です。日々患者さんを観察し、嚥下機能の評価をしっかりと行うことで、誤嚥を防ぐことができます。佐谷先生が話された、私たちにできることとして、「食べることには窒息・誤嚥というリスクがともなう」「しっかり評価して、出来る限り安全に経口摂取が継続できる方法がないか多職種で話し合うことが大切」を念頭に、今回の研修で学んだことを病棟全体で共有し取り組んでほしいと思います。